

敬慎院の日の出

敬慎院では、七面山の山頂からご来光を拝むことができます。夜 9 時の消灯を徹底しているため、日の出前には十分に休息してから出かけることができます。

午前 4 時、5 時になると、季節に応じて大きな太鼓を叩いて起こします。身支度を整えた後、寺の前の木の階段を登り、門をくぐります。門をくぐった先には広々とした空間があり、富士山と日の出を眺めることができます。

敬慎院でご来光を体験

ご来光とは "光の到来" を意味し、山頂から日の出を見ることも意味します。富士山の眺望と合わせて、ダイヤモンド富士と呼ばれる自然現象を体験することができます。

ダイヤモンド富士の日の出

ダイヤモンド富士の日の出は、春分と秋分の年 2 回発生します。正確な日付は毎年異なりますが、春分の日には通常 3 月 20 日か 3 月 21 日、秋分の日には 9 月 22 日か 9 月 23 日です。

ダイヤモンド富士の日の出は、富士山の真後ろから太陽が昇り、富士山の山頂を照らしてダイヤモンドのように輝く現象です。日蓮宗では神聖視されている珍しい自然現象です。春分、秋分の時期は日本の仏教徒にとって特別な時期であり、多くの人が先祖の墓参りや供養をします。

レイライン現象

春分と秋分の時期には、もう一つ不思議な太陽光現象が起こります。レイライン現象とは、太平洋からの太陽光が千葉県玉前神社に到達し、神社の赤い鳥居を照らす現象です。その光は富士山を通過します。次に、敬慎院と七面龍神像に到達し、額を照らします。最後に島根県の出雲大社にまで光が届きます。

日蓮宗の信者はこの現象を、敬慎院の場所が神々によって決定された証拠と考えています。

敬慎院の朝の勤行

日の出を見た後、訪問者は朝の礼拝に参加するように招れます。僧侶が「南無妙法蓮華經」を唱え、法華經を朗読します。儀式の途中、参列者の前に焼香の入った鉢が置かれ、その横に線香の小片が山積みになっています。

出席者は、祭壇に上がって祈りを捧げることをお勧めします。そのための手順は以下の通りです。

1) まず、出席者は、前の人が自分の席に戻るまで、会衆の横に立って待機します。参列者は通常、一列ずつ上に進みます。

2) 祭壇に近づきます。祭壇の前で手を合わせてお辞儀をします。

3) 右手の人差し指と親指で線香をつまみ、額に近づけます。

4) 燃えている山の上にお香を落とします。

5) 手を合わせて黙祷します。

6) 終わったらお辞儀をして席に戻ります。

事前に手配し、少額の寄付をすることで、参拝者は礼拝中に宮司の朗読を受けることができます。